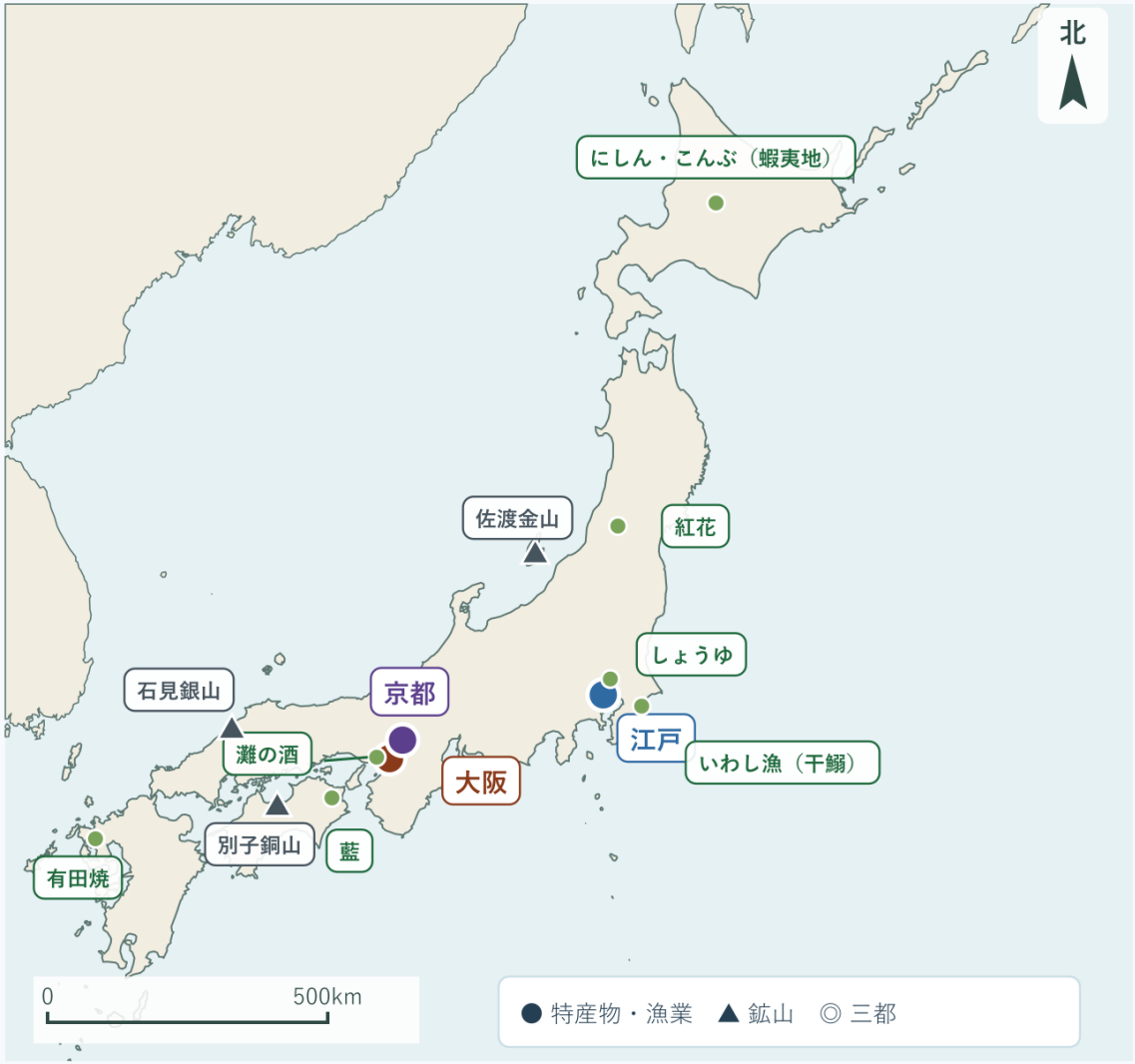
三都と江戸時代の産業

江戸時代、三都と各地はどのように結び付いて発展したか



三都の役割

江戸　「将軍のおひざもと」

幕府が置かれた政治の中心
大名や家臣が住み、人口が
100万人ほどの大都市になる

大阪　「天下の台所」

諸藩の蔵屋敷が集まり、年貢米や
特産物を売り買いする
商業の中心

京都　朝廷のある都

西陣織などの高級な手工業
学問や文化の中心

全国の産物が、五街道や西廻り・東廻り航路で
三都に運ばれた（「五街道と海上交通」の図を参照）。

特産物・鉱山は教科書でよく取り上げられる例で、位置は目安。今の県境は描いていない。